

第4班

東アジア開港場（租界・居留地）における 都市の発展と建築調査

(1) 共同研究員名

研究代表者：孫安石

共同研究員：内田青蔵 村井寛志 彭国躍 須崎文代 姜明采

客員研究員：菊池敏夫 大里浩秋

研究協力者：冨井正憲 田島奈都子 包慕萍

(2) 研究目的

東アジア開港場（租界・居留地）を巡った日本人の諸活動については、いままで上海を中心とした日本人居住地域を選定し、研究活動を展開してきたが、今回の第五期に当たっては、上海の他に青島と広州を加え、華北、華中、華南の都市の発展と租界の建築を比較検討する視点を確保したい。とくに青島では中国海洋大学、広州では広州外語外貿大学の協力を得ながら、日本人関連の領事館、銀行、学校、紡織会社などの歴史と建築に関連する調査を実施したい。いままでの共同研究で発掘できた日本外務省外交史料館、上海市檔案館、台湾中央研究院の資料、各種の新聞（North China Herald、申報）、雑誌（Far Eastern Review、『支那事变画報』、『写真週報』）、絵葉書（非文字資料研究センター所蔵の近藤恒弘コレクション）、写真集なども引き続き活用する。

(3) 活動経過

◎2020年度

(1) 第64回研究会（2020年5月14日）

- 第五期の研究計画について
- 年間計画について（例会・関連シンポ、広州調査）
- 論文集の刊行と資料の発掘
- 研究機関との連携——中国、フランス

(2) 第65回研究会（7月18日）

- 「戯単研究の可能性——1950年代上海を例に」森平崇文（立教大学教授）

(3) 第66回研究会（8月26日）

- 「吉田初三郎の鳥瞰図への誘い」劉建輝（国際日本文化研究センター教授）

(4) 第67回研究会（10月30日）

- 「朝鮮の外国人居留地と租界——群山（クンサン）の各国居留地を中心に」文智恩（元名古屋大学環境学研究科博士研究員）
- (5) 第 68 回研究会（12 月 18 日）書評会『東アジアにおける租界研究 その成立と展開』
 - 岩間一弘（慶應大学文学部）、内田青蔵（神奈川大学建築学科）、大里浩秋（神奈川大学名誉教授）、菊池敏夫（神奈川大学元教員）
- (6) 第 69 回研究会（2021 年 2 月 19 日）
 - 「租界と外国駐屯軍」櫻井良樹（麗澤大学教授）
- (7) 第 70 回研究会（2021 年 3 月 19 日）
 - 「工部局資料と上海五四運動再考」吉澤誠一郎（東京大学教授）

◎2021 年度

- (8) 第 71 回研究会（2021 年 4 月 16 日）
 - 「国民政府による青島の接収と中等教員——日本統治期からの連続性を中心に」山本一生（鹿屋体育大学准教授）
- (9) 第 72 回研究会（5 月 21 日）
 - 「租界と中国海関の資料について」木越義則（名古屋大学）
- (10) 第 73 回研究会（6 月 19 日）
 - 「満鉄工場区社宅地の日本人・中国人の空間構成——1910～20 年代の大連・撫順を中心に」包慕萍（大和大学准教授）
- (11) 第 74 回研究会（7 月 8 日）
 - 「19 世紀末朝鮮における日本公使館の変遷と居留地の形成——日本人たちはいかにして『京城』に住み始めたか」谷川竜一（金沢大学）
- (12) 第 75 回研究会（10 月 23 日）
 - 「朝鮮半島における日本の近代都市計画と建築——「羅南」と「鎮海」の事例紹介」金容範（漢陽大学校建築環境工学科工学博士、株式会社 Urban & Space Creates）
- (13) 第 76 回研究会（11 月 13 日）
 - 「中国の租界地と使館区における演劇活動」吉川良和（一橋大学元教員）

◎2022 年度

- (14) 第 77 回研究会（2022 年 6 月 16 日）
 - 「韓国の港町釜山と建築の風景」富井正憲（元漢陽大学教授）
- (15) 第 78 回研究会（7 月 14 日）
 - 「中国各地の租界と日本の神社景観」稲宮康人（非文字資料研究センター研究協力者、写真家）
- (16) 第 79 回研究会（9 月 22 日）
 - 「中国の SP レコードと上海の流行音楽」西村正男（関西学院大学）
 - 「上海の英字新聞 DB の紹介——The China Press をを中心に」孫安石（非文字資料研究センター研究員）

(17) 第80回研究会（12月15日）

- 「中国製ポスターと雑誌の関係」田島奈都子（青梅市立美術館学芸員）
- 租界・居留地班の今後の活動と日程

(18) 第81回研究会（2023年2月15日）

- 「戦時下上海の写真資料について」陳祖恩（上海・元東華大学教授）
- 租界・居留地班の2023年度の活動と日程

(4) 研究成果

- 森平崇文「租界・居留地班 第65回研究会 戯単研究の可能性——1950年代上海を例に」（『非文字資料研究センター News Letter』No.45、2021年3月）
- 孫安石「戦前中国の風俗絵はがきの世界（近藤恒弘氏 寄贈）満洲国に於ける農民の生活 其一」（『非文字資料研究センター News Letter』No.45、2021年3月）
- 櫻井良樹「租界・居留地班 第69回研究会 租界と外国駐屯軍——横浜・漢口・天津」（『非文字資料研究センター News Letter』No.46、2021年9月）
- 包慕萍「租界・居留地班 第73回研究会 炭鉱都市撫順から見た満鉄の住宅地計画」（『非文字資料研究センター News Letter』No.47、2022年3月）
- 大里浩秋「近藤久義さんを追悼する」（『非文字資料研究センター News Letter』No.47、2022年3月）
- 孫安石「近藤久義さんの思い出と資料」（『非文字資料研究センター News Letter』No.47、2022年3月）
- 大里浩秋「資料紹介 津久井さん作成の新聞切り抜きを見て思うこと」（『非文字資料研究センター News Letter』No.48、2022年9月）
- 吉川良和「中国の租界地と使館界における演劇活動——晩清民初を中心に」（『非文字資料研究』第25号、2022年9月）
- 内田青蔵「地図を活用した軽井沢別荘と開発の分析」（口頭報告、2023年1月27日、韓国・仁川大学シンポジウム）
- 孫安石「神奈川大学非文字資料研究センターの活動紹介」（口頭報告、2023年1月27日、韓国・仁川大学シンポジウム）
- 孫安石「上海の英字新聞DBの紹介——The China Pressを中心に」（租界・居留地班、第79回、口頭報告）
- 彭国躍『都市空間の言語生態——上海の言語景観と道路命名の歴史』（くろしお出版、2023年2月）
- 富井正憲「租界・居留地班 第77回研究会 韓国の港町釜山と建築の風景」（『非文字資料研究センター News Letter』No.49、2023年3月）
- パネル展示への協力「非文字資料研究センターの活動を紹介するパネル展」みなとみらいキャンパス（2022年12月1日～12月24日）



左 “Impact-Critical Thinking in Social Sciences”（2021 年 2 月号）の表紙
 右 韓国・仁川大学シンポジウム（2023 年 1 月 27 日）



- An-suk Son、How Europe, the US and Asia impacted each other's societies、“Impact-Critical Thinking in Social Sciences”、2021 年 2 月号

(5) 今後の課題と展望

第五期（2020 年度～2022 年度）の 3 年間はコロナ禍と時期が重複し、租界・居留地班の調査活動はすべて中止になるなか、合計 18 回の例会を開催することができたことは研究班の協力を得て可能であった小さな成果で、班員の皆様に感謝したい。

イギリスで発行される雑誌 “Impact-Critical Thinking in Social Sciences” の 2021 年 2 月号に「How Europe, the US and Asia impacted each other's societies」という題の論考を掲載し、租界・居留地班の活動を英語の読者に紹介できたが、今後も英語による研究成果の発信を模索していきたい。2021 年度から本格的に準備を進めていた「中国文化大革命ポスターコレクション」の刊行は、著作権問題をクリアし、2023 年度の刊行を目指している。その他、川合康夫さんから寄贈いただいた 1940 年から 1945 年の間、上海の町並みと都市景観を写した約 1200 枚の写真資料のデジタル作業が 2022 年に完了した。今後、『非文字資料研究センター News Letter』、シンポジウムの開催などの機会を通して、これら写真資料の研究を進め、研究成果を社会へ還元していきたい。

（文責 孫安石）